

島牧村地域公共交通計画 策定について

令和3年 8月12日

(1) 地域公共交通計画とは

- ◆ 「地域公共交通網形成計画」から「地域公共交通計画」へ（地域交通に関するマスタープランをバージョンアップ）
 - ・ 地方公共団体による作成を**努力義務化**
 - ・ 従来の公共交通サービスに加え、**地域の多様な輸送資源**（自家用有償旅客運送、福祉輸送、スクールバス等）も**計画に位置付け**
 - ・ 利用者数、収支、行政負担額などの**定量的な目標の設定**、**毎年度の評価**等（データに基づく**チェック体制を強化**）

地域公共交通計画の考え方

まちづくりと連携した
地域公共交通
ネットワークの形成



地域における
輸送資源の総動員

網形成計画と同様

今般新たに追加

**メニューの充実やPDCAの強化により、
持続可能な旅客運送サービスの提供の確保**

地域旅客運送サービス

公共交通機関



鉄軌道



路線バス



旅客船



コミュニテイ
バス



デマンド交通



乗用タクシ



自家用有償旅客運送



福祉輸送、スクールバス、
病院・商業施設等の送迎

2. 地域公共交通計画策定に向けた作業

実施項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 計画準備	→								
(2) 公共交通に係る村内現況調査									
①各地区の人口・世帯等の状況整理			国勢調査等の既存データを活用し、地域の現状を整理						
②村内地域公共交通の運行状況整理						民間バス事業者以外の公共交通資源についても整理			
③公共交通事業者の現状調査						島牧ハイヤーなど、村内の移動を担っている事業者について整理 ※必要に応じてヒアリングを実施			
(3) 公共交通利用者へのニーズ把握調査			→	→					
(4) バス利用実態調査（平日・日祝日の各1日）									
(5) 地域公共交通計画（案）の作成									
(6) 実証運行計画の立案									
(7) 交通事業者等との関係者協議									
(8) 協議会の運営支援									
(9) 打合せ協議 (仕様書回数によらずweb会議等の実施も検討)									

■ 第1回

- ・会議内容案

■ 第2回

- ・各種調査結果報告
- ・調査結果などに基づいた計画方向性案の協議

■ 第3回

- ・方向性案に基づいた施策・目標値案の協議（最終案）

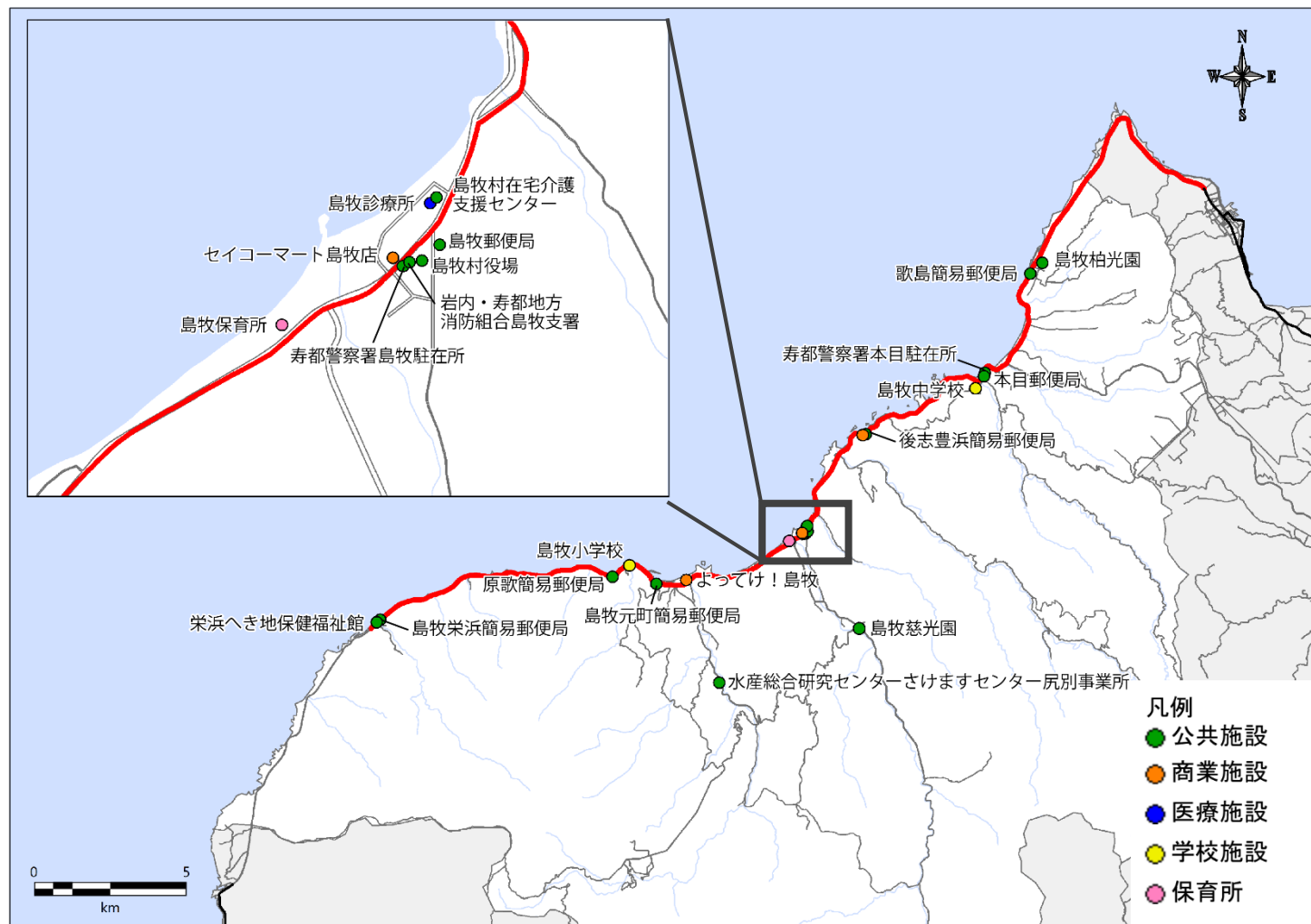
■ 初回

■ 中間

■

(1) 島牧村における都市機能施設の立地状況

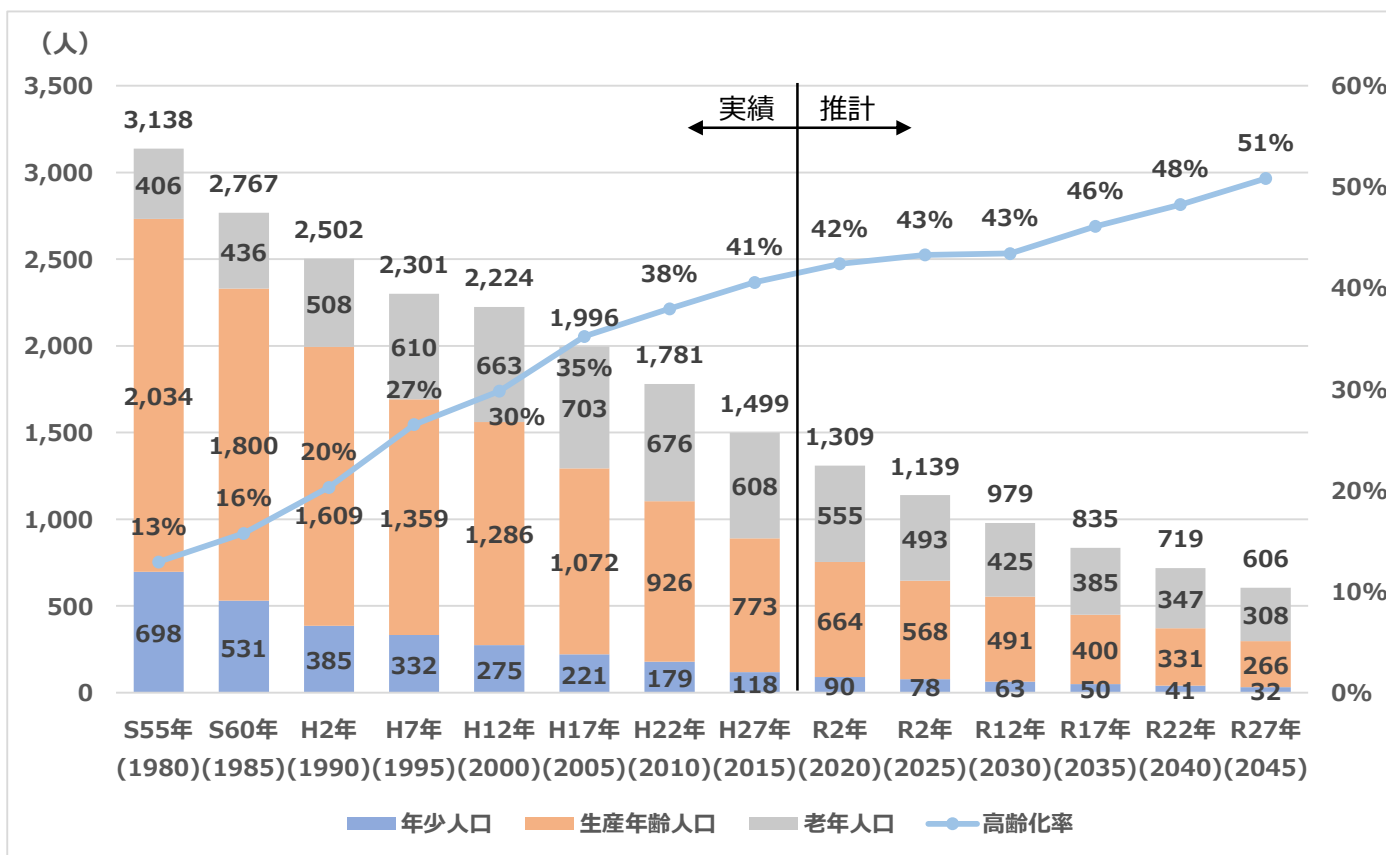
◆ 役場周辺部に商業施設・医療施設が立地していますが、小中学校は中心部から離れて点在しています。



出典：国土数値情報、iタウンページ

(2) 島牧村における人口変動

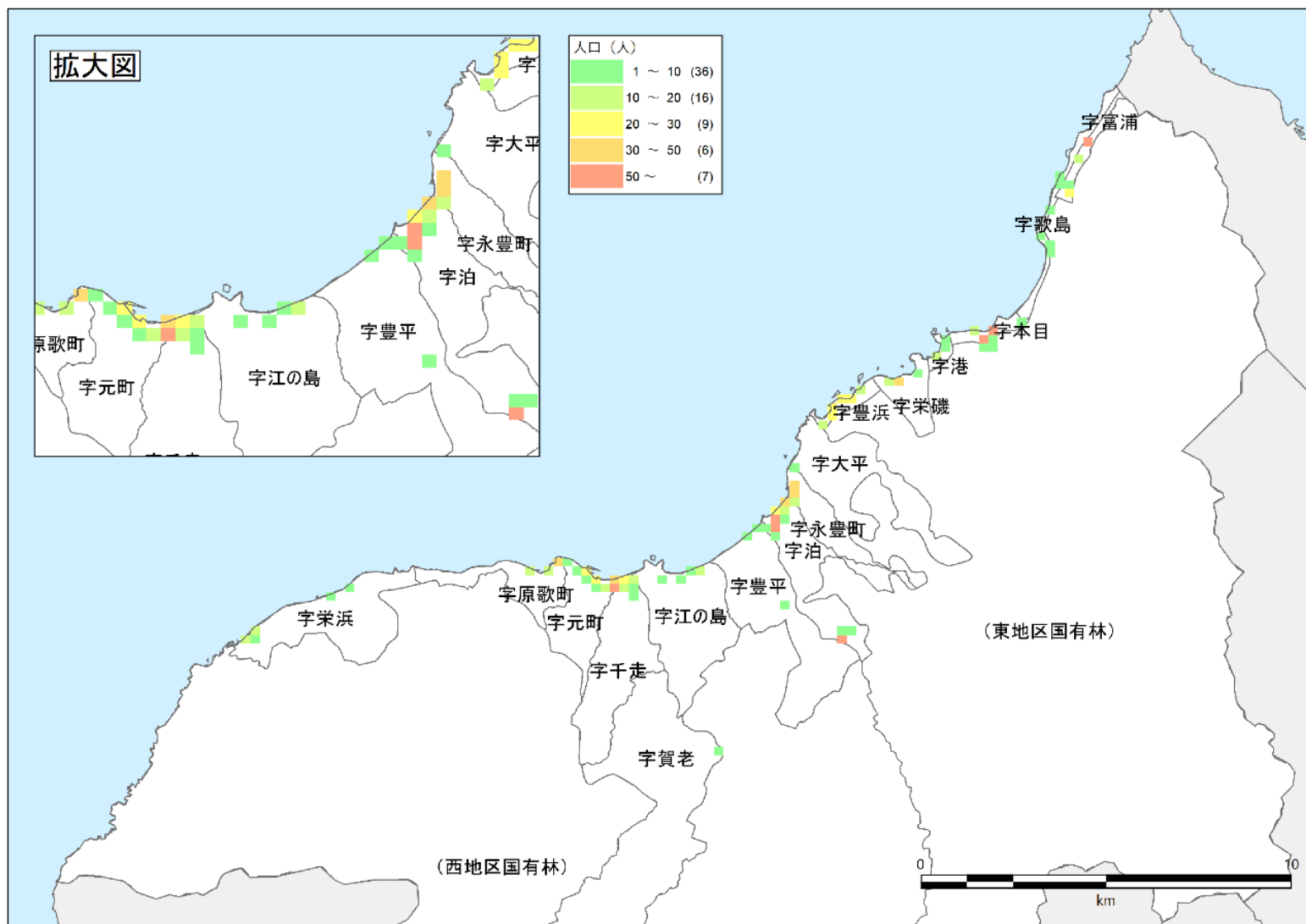
- ◆人口は経年的に減少しており、2015年には1,500人を下回り、高齢化率は41%となっています。
- ◆将来的には2030年に1,000人を下回り、2045年に高齢化率50%を超える推計となっています。



出典：実績は国勢調査
推計は社会人口問題研究所

(3) 島牧村における人口の分布状況

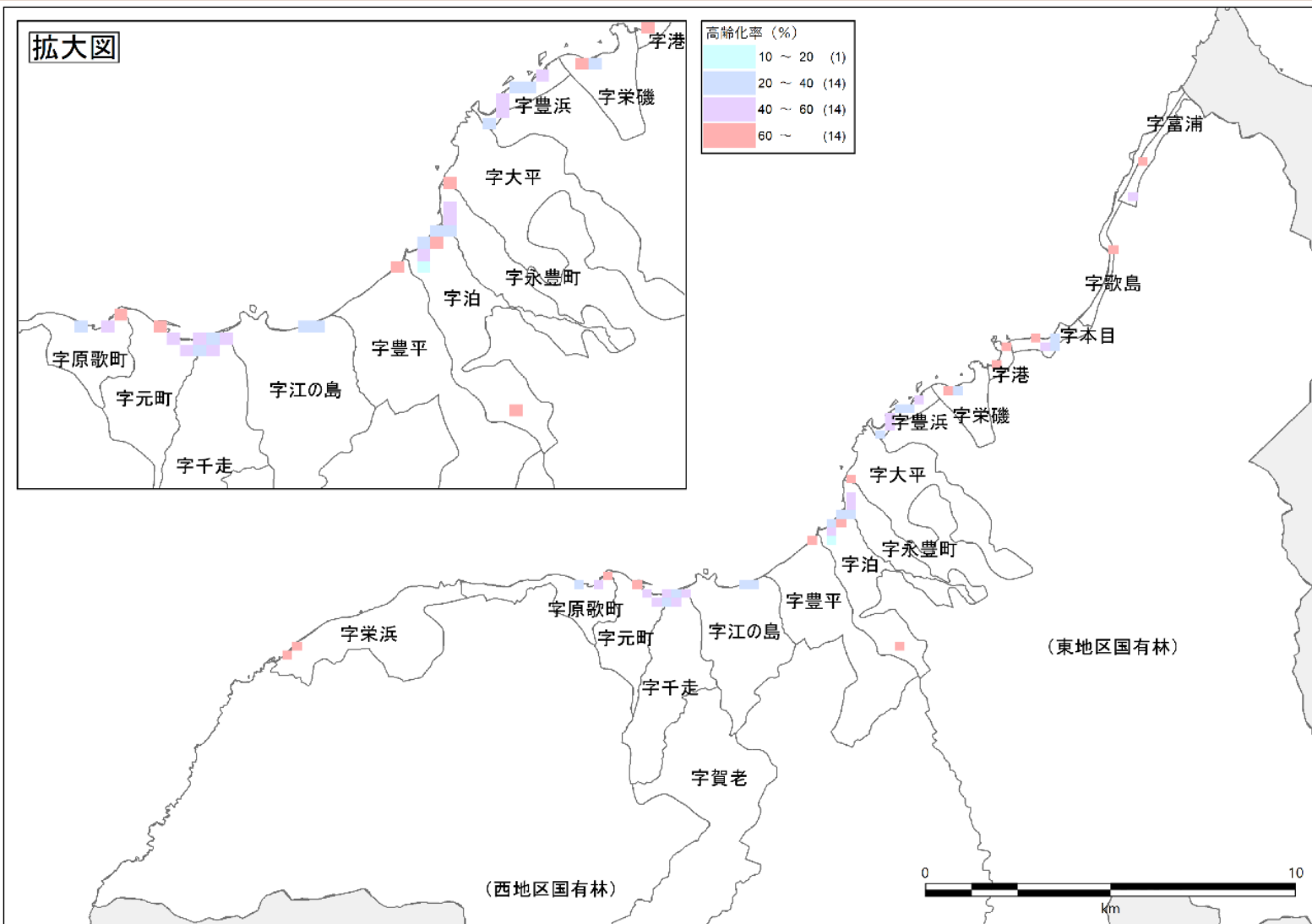
◆人口は沿岸部を中心に広域的に分散して居住しています。



出典：国勢調査 (H27)

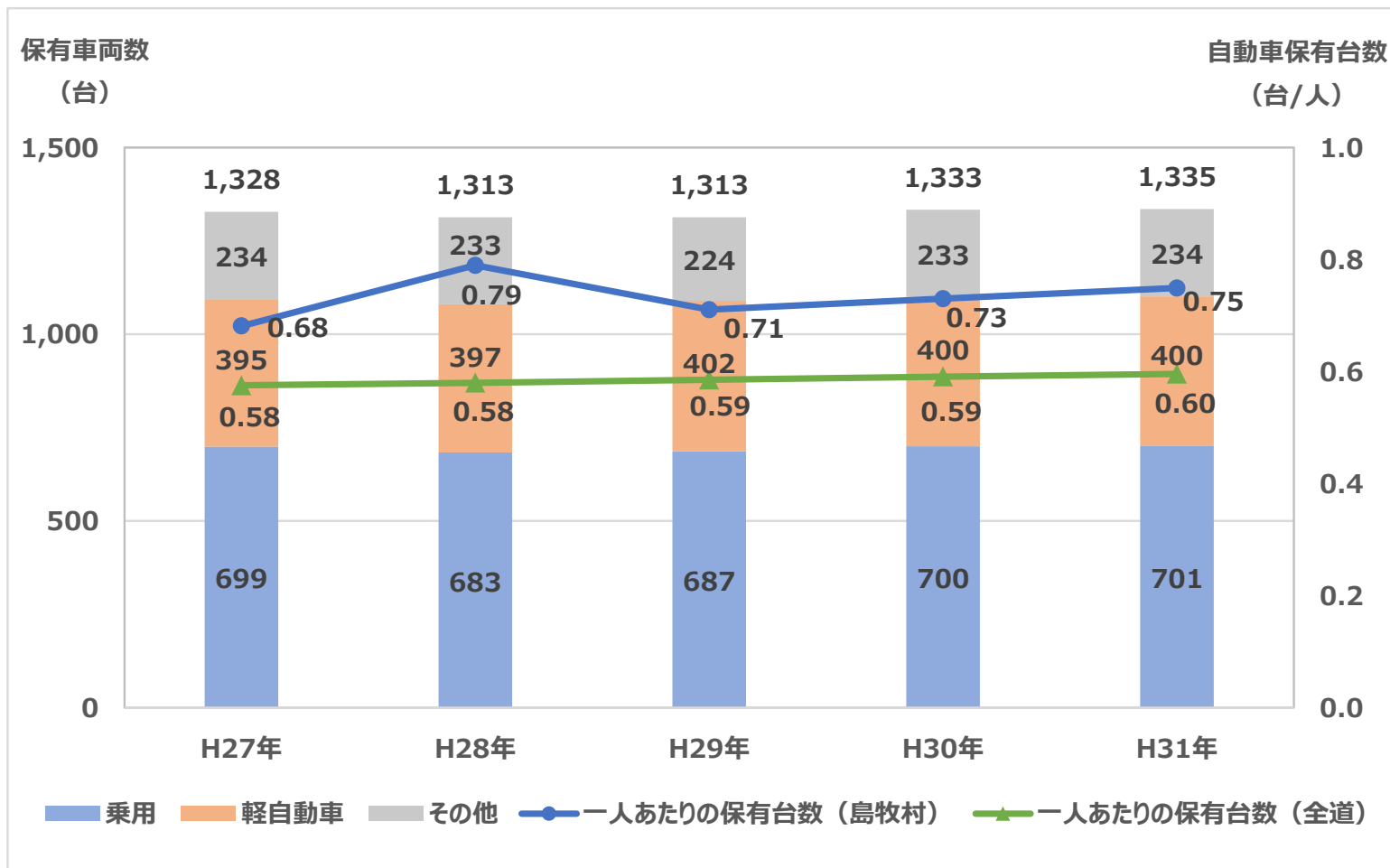
(4) 島牧村における高齢者の分布状況

◆ 高齢者についても沿岸部を中心に広域的に分散して居住しています。



(5) 島牧村の自動車保有台数

◆自動車保有台数は1,300人超で推移しており、近年は増加傾向となっており、全道平均と比較しても一人当たりの保有台数が0.75台と多い状況です。



(6) 島牧村の輸送手段

◆島牧村のバス路線は国道229号沿線を平日・土曜日にニセコバスが3便運行しており、日曜・祝日は村が同じ路線を代替バスとして、4便運行しています。

路線名	方面	便数 (便/日)	始発時刻	終発時刻	運行主体	備考
島牧線	寿都ターミナル方面	3便	7:00	16:40	ニセコバス 株式会社	平日・土曜
	原歌・栄浜方面	3便	9:00	18:30		
島牧村 代替バス	寿都ターミナル方面	4便	7:00	16:40	島牧村	日曜・祝日
	原歌・栄浜方面	4便	9:00	18:30		

【路線バス以外の輸送手段】

- ・ 子供の輸送手段：小中学生を輸送するスクールバス、保育所バス
- ・ 通院者の移動手段：患者輸送バス
- ・ 交通不便者の村内移動：移送サービス
- ・ 自由度の高い公共交通：島牧ハイヤー

(1) 調査目的

- ◆現状及び将来において、需要が高いと考えられる高齢者を中として、日ごろの移動実態や公共交通に対するニーズを把握し、今後の公共交通のあり方を検討する。

(2) 実施概要

- ・対象者：島牧村に居住する65歳以上の高齢者全員（約600名）
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・回収目標：30%（180票）

(3) 調査項目

調査項目	設問の意図
■回答者の属性について（問1） （性別、年齢、職業、居住地、運転免許・自動車保有の有無、外出頻度等）	<ul style="list-style-type: none">・各種設問項目でクロス集計を行い、各属性の傾向把握に活用する。・公共交通と外出頻度の関係を把握する。
■買い物・通院・私用の交通行動（問2） （交通手段、行先、移動・滞在時間、行動頻度等）	<ul style="list-style-type: none">・村民の生活行動を分析することで、現状のバス路線の使われ方や課題を把握する。・自動車利用者の移動特性を把握し、バス転換の可能性や免許返納の有効性、利用促進の必要性等を分析する。
■既存バスの満足度（問3） （運行経路、所要時間、運行時間帯、運賃、乗継待ち時間、総合満足度）	<ul style="list-style-type: none">・現状のバス路線に対する満足度を把握し、バスネットワークや利用環境としての課題やニーズを把握する。
■今後の公共交通の在り方について（問4）代替バスの有償化、患者輸送バスや移送サービス等の活用 など	<ul style="list-style-type: none">・既存で島牧村で運行している輸送手段について、持続可能な活用方法（有償運送、患者輸送バスの利活用等）を把握する。・予約運行型バスやタクシー助成など今後の考え方を把握する。

(1) 調査目的

- ◆既存のバス路線等の輸送手段の利用状況を把握し、今後の継続的な確保・維持の必要性について把握する。

(2) 実施概要

- ・対象路線：ニセコバスの島牧線、村営の島牧村代替バス
- ・調査日数：平日・日曜日の各1日
- ・調査内容：乗車及び降車バス停・年齢・性別
利用目的・利用頻度・最終目的地・乗継交通手段
- ・調査方法：調査員が1便につき1名乗車し、目視及び聞き取りにより調査

(3) 補足調査（個別聞き取り調査の実施）

【その他輸送手段に係る調査】

- ・既存バス路線以外の患者輸送バスや移送サービスについては、運行主体等に対して、利用者の属性や移動目的・頻度等について実態を把握

【関係機関に対する聞き取り調査】

- ・交通事業者：運転手の数や保有している車両台数、運行状況等の実態を把握
今後の効率的な輸送方法として、助成券や乗り継ぎ等の運賃割引適用の可能性、バス路線を代替する運行の可能性、現状における課題を把握
- ・福祉・教育関係者：患者輸送バスやスクールバス等の一般利用の可能性について把握